



◇コミュニケーションボードとは

聴覚に障害のある人や言語に障害のある人など、言葉に不安のある人がイラストを指さすことで意思疎通ができるコミュニケーションツールです。

●こんな方とコミュニケーションをとるときに・・・

- ・聴覚に障害がある方
- ・言語に障害がある方
- ・知的障害、発達障害などイラストで伝えたと理解しやすい方
- ・高齢の方
- ・日本語が話せない外国人の方

◇コミュニケーションボードの使い方（使用例は裏面へ）

- ・何か困っていること、何か伝えたいことがあるときには、正面にまわって注意を引いてから、ゆっくり、優しく声をかけてみてください。
- ・言葉が通じないときや、相手が何を言っているのか分からないときに、「どうしましたか？」とコミュニケーションボード【表紙】を見せながら聞いてみてください。
- ・相手にコミュニケーションボードを指さしてもらうことで、意思を確認してください。
- ・指さしが困難な方には、支援者の方から指をさし、その反応を表情や動作によって確認してください。
- ・言葉が話せなくても、文字が書ける方やスマートフォンを使える方がいます。ホワイトボードやアプリを案内してください。

◇ページ一覧 必要に応じて各ページを利用してください（ホワイボード有）

【表紙】



【避難者名簿編】



【アレルギー編】 【アプリ編】



【体調編①】



【体調編②】



【用件編①】



【用件編②】



【文字・数字編】



◇サポートポイント〈例〉 ☆見た目では分かりにくい場合がある ☆本人や周囲の方に配慮方法を確認する ☆情報の伝え漏れがないようにする

	聴覚障害	知的障害	発達障害	高次脳機能障害 (記憶・言語等の認知機能の一部に障害)	内部障害・難病・ 精神疾患	視覚障害	身体障害
情報伝達	情報掲示板、筆談、メール、テレビ (文字放送、字幕放送)	絵や図、メモなどを使い、具体的、ゆっくり、優しく、簡潔に伝える 質問するときは「はい」か「いいえ」で答えられるようにする なるべく肯定的な表現で伝える 「～してはだめ」→「～しよう」		漢字の方が意味が伝わりやすい場合がある	本人の状態にあわせ ゆっくり伝える (筆談など)	音声、点字、音声入力装置	車いすからも見やすい位置に情報を掲示
対応例	補聴器用の電池や暗い場所での対応のためライトを準備	自分の状況を説明できない人が多いことを理解する パニックになる等、感情をうまくコントロールできない場合は、落ち着ける場所へ移動	集団行動が苦手な人が多いことを理解する	大切な説明や予定は、メモに書いて渡す(記入日時や記入者氏名を記載)	装具の洗浄場所を設置したトイレの使用、服薬中の薬への配慮	杖(白杖)、歩行器、車いす等の使用のため、スペースの確保や段差・障害物の解消を行う	

岡山県災害用コミュニケーションボード使用例

【表紙】：支援を必要とする方の状態やコミュニケーション手段を確認します

【避難者名簿編】：名簿作成に必要な情報を聞き取ります

【体調編①】

【用件編①】

避難者名簿編や体調編でも活用することのできる項目です

支援者側の意思表示やより細かなニーズに対応するため、日本語が書ける場合は筆談（ホワイトボード）を、スマートフォンの入力可能な場合は、アプリ編を案内します

【アプリ編】

- ・支援を必要とする方（特に聴覚障害）「こえとら」、「YY文字起こし」
- ・支援者や外国人の方「UDトーク」（話し手向けアプリ、多言語に対応）
- ・家族や緊急通報機関への電話連絡「ヨメテル」（通話相手の音声を文字に起こす）

【数字・文字編】

【ホワイトボード】

【アレルギー編】：食べられないものを確認します

【体調編①,②】：体調が優れない方に使います

【用件編②】：「何」が欲しいのか確認します

【避難者名簿編】

【アレルギー編】

【用件編①】

【用件編②】